

平成26年度 第3回南伊豆町学校統合審議会議事要旨

1 開催日時 平成27年2月25日(火) 19:00~20:30

2 開催場所 南伊豆町役場災害対策室

3 出席者

(委員)

木下和美(会長:学識経験者)、佐野 薫(副会長:南伊豆中学校長)、

川合信子(南中小学校長)、高橋美智子(南上小学校長)、

加畑 毅(南中小PTA代表)、惣田直樹(南上小学校PTA代表)、

鈴木雅弘(南上小学校PTA)、中村弘美(南上小学校PTA)、

関本宗一(竹麻地区代表区長) 齋藤八州照(南上地区代表区長)、

外岡円治(三坂地区代表区長)、齋藤守正(三浜地区代表区長)、

(事務局)

勝田英夫(教育委員会事務局長)、白井秀治(学校教育係長)

小嶋淑子(学校教育係主任主事)

4 欠席者

山田明美(学識経験者)、高橋道敬(南伊豆中学校PTA代表)

佐藤浩美(南上小学校PTA)、平山 繁(南崎地区代表区長)

土屋 誠(南中地区代表区長)、竹河十九巳(公募選出)

5 議 事

・地域における学校の役割

・委員の変更について

・その他

6 資 料

・公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引の抜粋

(案) 文部科学省資料(※平成27年1月19日中央教育審議会)

・南上区長会会議等復命書

7 会議経過(概要)

会長挨拶

前回、第2回は『小規模校』、特に『複式学校』ってことに焦点を当てた中での、メリット・デメリットについて色々意見を出していただきました。今回3回目になる訳ですけど、今日は前回、文科省の方で手引きが出された中に、学校規模の適正化の適否を検討するにあたって、地域の実情とか、思惑とか、そういうことも充分反映しながら、検討するよというんことが出ていたと思ひますが、今回は、その“地域”に焦点を当てて協議を進めていきたいと思ひます。従ひまして、議事の方は、地域における学校の役割が1番、2番目に委員の変更、3番その他となっております。

議事の方に入りますが、『地域における学校の役割』というんこと、協議してきたいと思ひます。

前回から今日に至る間、南上地区で「区長会」というものが持たれて、その中でも話が出たと聞いております。それから、南上小学校のPTAの方でも、何か動きがあったと聞いておりますので、そういうのも出していただきながら、話を進めて行きたいと思ひます。

最初に南上地区の区長会で出た内容について、事務局の方で説明していただきます。お願いします。

事務局

それでは、南上地区の区長会でのことを報告します。皆さんの机に『会議等復命書』があるかと思ひますが、平成27年2月6日に教育長に会議の復命をしたものです。会議の日時は、2月5日です。19時50分から、青野公民館において青野の区長さんから南上地区の区長会において、『学校統合審議会の今の状況をお知らせして欲しい。』という依頼があったので、出席したものです。市之瀬区長以下、南上小学校は教頭先生、教育委員会から私が出席したものです。それで審議会の内容ですが、紙面上、発言しているのが区長さんと私だけですが、実際には、何々区長、何々区長と出てきますが、ちょっと、なかなかデリケートな部分なので「区長さん」になっています。その中で私が説明したものです。皆さんこれは、私が事務局ですので、進捗状況と「今後、こういう方向で進みたい。」という話をしてきたところ、これは、正直な感想ですが、南上地区の区長さんのところに私1人で行ったんで、さもすれば、お叱りというか、「小言を言われるかな」と思ったら、そうではなかったんで、少し驚きました。まず、最初にあったのが、とある区長さんが「賛成とか反対とかの問題ではなく

て、今回の統合審議会は、そもそも、こういった形でスタートしたんだ。どういう方向なんだ。」という意見が出ました。

それについては、復命書の2番目の発言の私ですが「前回の平成17年度の統合審議会の答申に基づき再度設置したものです。複式学級が解消されない見込みがあれば」という説明をしました。

それと、前回の資料ですが、1月に文科省から、『小規模校に関する手引き』が示されたと、この手引きだと、複式学級は、教育上の影響が極めて大きいと記されております。

区長会では、「仮に審議会を開催しないにしても、教育委員会として、そもそも南中小も東小も含めて、全部話しをしなければならないぐらいの内容です。」「統合に関する会議は、統合審議会以外でも、何かしらの場で、会議がなされていると思います。」と伝えました。

そうしたところ、次に発言した区長さんが「そもそも学校っていうのは、“教育の場”なんで、地域のことと教育は分けて考えた方が良いでしょう。」という発言がありました。更に付け加えると、活字にするとあまりよくない表現ですが、「これからの学校は、若い人たちの考えを尊重すべきであって、私たち年寄りが、言うべき問題ではない。」という発言もあったのですが、ちょっと割愛しました。

その次の区長さんも「子供第一に考えた方が良いでしょう。教育上問題があるならば、統合で考えるべきだ。」「アンケートは、取ったほうがいいですよ。」

「できれば、小学校5・6年生にもアンケートをやってみたら。」と、「小学校5・6年生は、もう大人の考えがあるだろう」と、その区長さんは、認識をしていました。当然ながら、小学生たちは、学校を残したいに決まっていますね。反対する子はいないと思います。とある区長さんは、「この統合問題は、地域で、南上の区長会で、結論を出すのは難しいですよ。」という話も出ました。とある区長さんは、これはお叱りだったんですが、「南伊豆町の教育政策が矛盾していると、特に、今の南上の子供は、認定こども園に来ている子供たちが多い。」ほとんどそうだと思います。「認定こども園では、こどもの数が、友達の数が多いけど、小学校になると、南上小になるので子供の数が少なくなる。これは、順番が逆ですよ。」と、その区長さんの息子さんの頃は、ちょうど中学校の統合の時期だったそうです。南上中学校と南伊中学校の。「学校がなくなったのは、ともかくとして、友達の幅が広がった。」と、「子供は順応性があって、将来的な人口

の減少問題は避けられないから、もう、統合中心に考えるべきです。」また、

とある区長さんが「保護者と子供を第一に考えて欲しい。子供のことを大人の勝手に決めるわけにはいかない。5年後に統合を目指しては。」これらを全部の区長さんがしゃべっただけではないです。

発言の中で、「年寄りが意見を…」と、最後の「5年後の統合を目指して…」は、同じ人です。という状況で、あと今後のアンケートの取り方とか、事務的な話をして20時半で終わってきたところです。蛇石区は、区長さんが欠席だったので、区長代理さん、それと全部の区長さんが発言をした訳ではないです。委員の区長さん、何か補足等がありますか。

委員 いや、補足というより、これで文面としては良いのではないのでしょうか。

事務局 これは、審議かどうかということではなく、結果報告です。統合反対の方からお叱りがあるのかなというのが、正直な感想だったです。

南上小学校の教頭先生となっているのは、校長先生がインフルエンザでお休みだったそうです。この資料を出すにあたって区長名が出ると、いろいろと不都合もあるでしょうし、最初は、『南上地域振興協議会』かなと思ったのですが、代表区長さんと話をして、『南上区長会』という名称に変えたのと、個々の区長さんの地区名を出すのを控えよう。という話になりました。この件で、何か皆さん質問はありませんか。

会長 5年後の統合というので、“5年後”というのは、何か理由があったのでしょうか。

事務局 小学校に関係者でもいるのでしょうか。そこはよくわかりません。私も、この“5”についてはわかりません。切りが良いのでしょうか。このことについて何か質問はありませんか。

委員 先程、事務局からから言われましたけれども、振興協議会と区長会と分けたのは、振興協議会というのは、区長、区長代理、それから民生委員、それから他の団体が入っている規模の大きなものなので、その人たちを含めた話をすると、大きい話になるので、今の段階で、そこまで話を広げるの

は、難しいのではないかと、というところで「区長会」にしました。
また、今後の話の進展によっては、今回限りとはしないで、またそういう話し合いをしなければならないという方向で考えています。とりあえず、今回はこうしました。

事務局

それから当然ながら、区長さんも皆さんも新年度になると、委員が変わられる。先生も、私も変わるかもしれない、事務局としては必要があれば、特にこれから、メンバー交代とか、いろいろ出てくるじゃないですか、区長さんを含めて、あくまでも、今までの進捗状況を報告するだけなのですが、そう言ったのは、区長さん方にも、また必要があれば呼んでくださいと、区長さんの方にも伝えたところです。

会長

文科省の手引きの中では、地域における文化面、或いはスポーツ面での“核としての学校”としての そういう点での配慮が書かれてあったと思うのですが、そういう点については、「南上小学校は、私たちの地域にとっては、コミュニティーの場として、大事なところだ。」とか、そのような感じの話は出なかったでしょうか。

委員

そういう話も出ました。やはり自分の意見として、その時は あまり出さなかったのですが、特に、コミュニティーとしての南上の中心的な役割を南上小学校は持っていると自分の認識の中では思っていますけれど。区長会の時には、あまり言いませんでした。

事務局

手引きを1から全部を説明した訳ではないので、というのもあります。時間的な制限もあります。概要説明しただけなので。

会長

現在、地域のコミュニティーの場としての、学校との関わりっていうのは、どういうことがあるのでしょうか。

委員

どういうことかと言うと、南上地域が学校を中心として、人が集まる場所だったと言うのは、『町民体育大会』が、まだ南伊豆町にあった頃なのです。その頃は、小学校、中学校、保育園、それから町民が一緒になっての合同運動会を実施していました。それが徐々に中学校が離れて行き、保育

園が離れて行き、といった形で規模が小さくなってはきているのですが、それでもみんな学校に行って運動会に参加しようという気持ちは持っています。全部が全部ではないですけども。それが一つの南上地区の運動会を通じた地域性だと思っていますけど。

事務局 付け加えると、南上小だけ少し特殊といえば特殊で、地域と合同運動会という表現でいいんですかね。

委員 合同運動会ですね

事務局 昔から合同運動会で、一時、止めたんだけど、またやり始めた。

委員 止めてはいないでしょう。

委員 一時、止めた時がありました。平成18年から、また地域が寂れてきちゃうので、学校を核として、南上地域振興協議会が中心になって、とにかく地区の活性化のために、学校と一緒に運動会を再開しようと平成18年から、また始まったと引き継いでいるんですけども。仮に、統合ということになっても、地域のコミュニティーとしての場としての存在を、今までの存在価値を、引き続いて持たせていくような配慮をしなければいけないという。そういうことも手引き書に書かれていましたが。

会長 中学校は統合してから、中学生はそういう運動会には出ないのですか。

委員 出ませんね。どうですか。

委員 兄弟がいればともかくですが。

委員 参加する種目が少ないとか。

会長 ということは、地域と、地域の人たちと小学校とが、いわゆる、合同に運動会を行う。そういう感じにとらえていいのでしょうか。

- 委員 それはね。だから種目にもよるのでしょうけれど、出れる範囲で、盛り上げるための種目を今現在、最低限に近い状態でやっているのですよ。本来、もっと拡大すればできると思うんですが、集まるという確信が持てなければ、なかなかそこまで広げることは難しいと思います。
- 委員 運動会は、学校だけで計画を立ててしまうのではなくて、6月頃に一度、役員会を持った後、南上地域振興協議会に、学校の私たちが体育主任とか、教務主任とかも参加して、一緒に区長さんとか、民生委員さん、老人会とか、消防団とか、いろいろな人がいる中で話し合いの場を持って合同企画っていうのか、実務を担うのは教員の方が多いですけども、できるだけ沢山集まって、子供がいない方なんかも結構来て下さったりしていろいろな方たちが参加している。そこに来て地域のこともあります。地区が広くて、なかなか会えないので、そういうところに来て出てくることになって話がはずむ。というような趣旨だと聞いている。
- 事務局 運動会は盛り上がりますか。
- 委員 かなり盛り上がります。種目によりますね。
- 事務局 区長さん、リレーとかで走るのですか。
- 委員 走ることはしないですが、グラウンドが広いので、子供の数、保育園児がいなくなったので、ガラガラになっている。だから、盛り上がっている気持ちはあっても、ちょっと冷めているところもあります。
- 事務局 これは余談なのですが、私が企画調整課にいた頃に、合同運動会などで、南上を盛り上げたい。と言うことで、当時の南上振興協議会の区長さんの時に宝くじの売上金から地方自治体に使ってくださってという助成制度があるじゃないですか。あれでたしかイベントセットをいただきました。綿菓子とか。使ってくださいます積極的に。綿菓子やポップコーンとか、餅つきセットとか。最近では上小野祭りで使っているとか。
- 委員 運動会に限らず、他の集いがあった時には、自由に使ってもいい約束にな

っている。使っています。ちゃんと、使われています。

会長 三浜小は統合しましたが、三浜小は合同で運動会というのがありますか。単独なのですか。

委員 単独ではないです。地域の方を呼んで種目を入れないと、人数が少ないのでとても子供だけじゃできないので、それこそ、中高生も配慮していただいて参加できるようにと、種目の方も工夫していました。

会長 要するに地域ぐるみで。今は、三浜地区はどのようになっているのでしょうか。

委員 三浜地区の運動会ですか。

委員 運動会はないですね

会長 地域の運動会というのは、もう、学校が統合されてからやらないですか。

委員 昔は、よく三浜で、妻良・子浦・伊浜で対抗みたいなのをやっていましたけどね、今はやっていないです。

事務局 南中小も、今は父兄参加種目という種目だけですか。

委員 そうですね。小学校は。

会長 南上の区長会の話の終わりの方で、「認定こども園に行って、友達になって、小学校になると分かれちゃうと友達が少なくなる。順番が逆で不自然ではないか」ということですが、順番が逆というのは、これは、幼稚園で一緒のところに行って過ごして、小学校に行って、年が上になったんだけど別々になるということで、“逆”という表現なんだと思うんですけど、そういうことは、これから小学校に入る親御さん、今の認定こども園に通っている親御さん達はどう考えているか、その辺はまだわかりませんか。

- 委員 それはPTAとか、学校のものなので区長の方ではわかりません。
- 会長 そのあたりはわかりませんか。
- 委員 その辺のことも、近い将来アンケートを取ろうかというところまでは、進んでいるんですけど、まだ、行動には至ってないです。
- 会長 それから、始まる前に南上小学校で、アンケートを取ったと聞いたんですが、その辺のことは集計とか、まとめはできているのですか。
- 委員 アンケートの対象はPTAだけです。だから兄弟の下の子が（認定こども園分とか）は取っていないです。学校のPTAだけです。結局、私たちがこの会に臨むのに、個人の意見を言えば、それぞれ個人の意見は有るんですが、代表で出ている以上、PTAのある程度の傾向がわからないと。たとえば、区長さん方も、南上の区長さん方は皆さん真面目な方々なので、個人の意見ならたくさん有るんだろうけど、やっぱり区民の総意ってことで、皆さん考えてくださる。私たちもね、みんなの意見がわからないと、なかなかこの場で発言できないからと。一応、PTA数の会員数だけアンケート配って、1・2枚回収できないのはありましたけれど、ほとんど回収できました。結果については、まとめてありますが。
- 事務局 配ることは可能ですか。先走ってしまう感はありますけど。
- 委員 今日の議事がそうじゃない話だと思うので、また、その時になったらですけど、およその傾向は話せると思うんですけど。
- 会長 もうアンケート取っちゃったの。
- 委員 一応。すごく簡単なものですが。どうしたらいいですかね。
- 会長 一応ね、今後の参考に。
- 委員 なんで取ろうかっていう話は、役員会をやっていた時にPTAの運営委員

会のようなものですが、結局、あるお母さんがわからないって言うんです。自分の気持ち。結局、だから、子供のために一体何が良いのかがわからないと、だから、「皆さんはどう考えているかな」って。例えば二人子供がいた時に、上の子は大きい方のところに行った方が良いかもしれないけど、下の子は、もしかしたら性格からして、小さいところの方が良いかもしれない。とかと言って、だから、十人十色で、大規模でもまれて、ぐちゃぐちゃやってグーと伸びる子もいれば、そこに行ってどうかなって、自分で判断するのに、すごく不安があると、だからどちらかを選んでいかなければならないですよ。皆さんは、どう考えているのかなとか、例えば小規模校のメリット・デメリットとか、大きいところのメリット・デメリットがあるって言うけど、一体、具体的には何なのかってことが、自分だけではわからないってことで、一応、賛成とか反対とか、賛成（どちらかという賛成）、どちらとも言えない、どちらかと言えば反対、反対というのを、丸も付けてもらいながら、例えば、このまま南上に勉強していくといいなという点と、心配な点、大きいところに行った場合に「いいな」と、思う点に心配な点と言うのを書いてもらって、表のようにして、まだまだこれを明後日、参観日があるので、まだ、保護者にも返してないので、そこで簡単に、皆さんはこう考えていますよ、と、返そうとしていまして、なんとしてもその後の方が良いかと思うんですけど、ちなみに36ぐらいなんですよ、部数が。

事務局

36人のPTAですか。

委員

そうです。回答として返ってきたのが19人。

事務局

PTAの役員ではなくて、全員ですね。

委員

36配布して1・2部返ってきていない。賛成が3、どちらかと言えば賛成が4、どちらとも言えないが9、どちらかと言えば反対が5、反対が10という形で、どっちかと言うと反対が結構多くて、わからないな、悩んじゃうな、この悩んでいる人の中には、さっき言ったこども園にお子さんがいて、中学年（認定こども園 年中組）ぐらいの子供がいて、来年・再来年に小学校へ入ってくるとか、そういうお母さんもいて、さっき言っていた

ような問題もあると思うんですよ。たぶん、「こども園で一緒なのに」なのもあったり、そうするといろいろ迷っちゃった。と言うような感じかなと。前回の審議会で会長がまとめてくれたように、やっぱりこの南上にいけば、先生の目が届いて学力的に保障されているけど、でも、この限られた人間関係の中で良いのかなって言うような、この前言っていたようなことと、同じような心配事があったり、やっぱり統合した場合に、友達が増えたり、とかなんとかしてすごく人間関係が広がって良いだろうけど、競争心も生まれるだろうけども、でも、「そこに行って上手くいくかな」とか、または「埋もれてしまったり」だとか、「勉強とか見てもらえなくなって、わからなくなるのじゃないか」だとか、心配もあったりだとか、あとは災害時だとかにね、引き渡しが出来ないとか、あと通う時の通学のこととか、積極的な子と消極的な子の差が生まれるんじゃないかなとか、この前言われたようなことと、保護者の方が考えられたことは同じようなことなので、また、このアンケート結果を皆さんにお知らせしてから、次にまたそのような話になった時には、資料として、また、言葉も選ばなくちゃならないことが出てくると思います。今日は、教頭先生が急いでまとめたので、不適切な言葉もあるかも知れない。他の委員で何か補足があれば。せっかく委員で来ていらっしゃるし。

会長 何かPTAの役員さんからはありますか。

委員 今、言われたように、今まで話し合ってきた良いところと不安なところ、同じような意見が出ているんで、まだ、ここで結論を決めるのは早いのかなという感じがします。

会長 おそらく、現在、小学校に通っている子供の親御さんは、やっぱり学校への愛着があり、その思いは深いのかなと思います。認定こども園に通っている親御さんは、せっかく仲良くなった友達と別々の学校は嫌だねというところかな、ということが推測されるのですが、どっちに転ぶにしても結論を出すのは難しいようなところですけど。

事務局 事務局としては、いずれアンケートを取るようになるので、今日のアンケートは南上小の事なんで、貰うも、もらえないも私たちのどうこうではな

くて、「ください」と言っても渡せないところもありますか。

委員 そんな秘密なものじゃないですけど、教育委員会には持っていこうと思っていますけど。

事務局 そのアンケートの設問内容を見たいですね。どんなアンケートで、どのような設問で、それも見ないと。私たちはそのアンケート結果を検証しようとするのではなくて、私たちがアンケートをする時の参考にしたいのもあります。

委員 それもまた持って何うようにします。とりあえず、今回のはね、私たちがね、ここに代表で来ている人達の個人の意見はそうじゃないので、様子を聞いてから“公の立場”でモノを言おうということで、ざっくりとどんな事を思っているのかなっていうことで、書いていただいたという感じですね。

委員 このアンケートにつきましては、とりあえず、統合審議会が立ち上がって、第一次的なアンケートですから、2月27日に、PTAの関係で参観日に学校側がまとめた回答を保護者に渡して、この回答を見て、また保護者の考えが変わる可能性もあると思うし、本当に第1回目の漠然としたただ、審議会があって、統合になったらどうなって、ということでしたからね。本当にもう一回、何度かアンケートを取っていただいて、本当に自分の意見、「どちらかとも言えない」と言う意見が、9名程いたというのは、正直なところだったと思うので、そこのところをですね、『これが答』じゃなくて、投げかけていくつもりで、学校側としては、第1回目のアンケートを取ったということなので、結果を見させていただきたいなと思っています。

事務局 やはりアンケートを審議会としても取らなければならないと考えます。取り方としては、まず審議会の審議状況をお知らせする必要があります。第1回目の審議会は、現状確認で、複式は解消できる見込みがないと、2回目は、複式について、小規模と複式は、まず違うということ、それと学力面では複式は良いだろうと、教育基本法にある、人間力という面では、人

数が多い方が良いかなど、という意見も喧々諤々議論された中で、皆さんどう思いますか、と、どうですか、と。そして、本日の地域のこと、そこでアンケートになって、前回も言いましたけど、食品レポートのようなアンケートの、「どうですか？どうですか？」には絶対にならないようなアンケートになろうかと思っています。事実に基づいた内容と言う形になります。それと、前回の平成17年の統合審議会議事録を見ましたが、どうしても、お役所特有のコスト問題が、必ずついて回りますが、町長が言っているとおり統合ありきでは無いよと、教育長・町長はそう言っているのですが、みなさんが出せと言われても、事務局としてはコストの事は出さないつもりです。それがひとり歩きするし、皆さんがびっくりするような数字が出るかもしれないので。そう言うと、見たいでしょうけど出しません。という事実もあるので、ここは本当にコストではなくて、教育とは何ぞや、子供とは何ぞや、地域とは何ぞや、というその点だけで、会議を進めたいので。

会長

子供たちの教育ということで、“子供にとってということが、第一”ですから、コスト面は、後のことになります。だいたいまあ、誰が考えても2校が1校になるのだから、コスト面で考えても、どうかっていうのは大体の察しは付くかと思いますが、それがあってのことではないです。今日はちょっと、参加者の人数が少ないので全員がしゃべってもらおうと話が深まると思います。

事務局

皆さんに配布した資料ですが、それは抜粋なんで、極めて常識的なことしか書いてないです。地域に配慮した方が良いだとか、そんなことなので、これについてどうこう言うことは無いです。最後には皆さん、学校統合に関わる中で、地域や保護者の代表に検討会のメンバーに入ってもらえだとか、アンケートを取れだとか、今の小学生の父兄だけでなく、就学前の保護者や子育てを予定している世帯の意見を、とかとか、極めて常識的なので、必ずしもこの手引きに、機械的にこの手引きに拘るわけでないので、本当に皆さんの地域への思いとか、逆に言うと、小学校を残さなくてはならない理由だとか、突っ込んだ話を今日はもらいたいです。区長さんの話じゃないですが、「教育と地域は別だ」という意見が有ればそれも戴きたいです。その辺も突っ込んだ話をしたいですね。南上以外の区長さ

んにもお話したいのですが、恐らく今後も人口減少は止まらないです。例えば東小学校、6年生の児童数が30人、男が確か16人だったか、単純に半分で15人でもいいです。このまま中学校に行ったときに、今、学校外でサッカークラブとかが有るじゃないですか。という事で、伝統ある南伊豆東中学校のバレー部の入部希望者が3人だと。で、あと残りがテニス部。と、言ったって、実質テニス部じゃなくて、他に目指すスポーツ、志したいスポーツがある。今日、東中学校の校長先生と話しました。確かに、東中バレー部は昔から強いんですよ。「それが終わっちゃうよ」と。区長さん達に言いたいのは、そういった面でも中学校の“統合”っていうのも、いずれ避けられないし、たまたま今、議論は、南上小学校になっていきますけど、そういったリアルなイメージで、恐らく30年後には『1小1中』になっちゃうと思うのですよね。そういうことも含めて、地域の在り方だとか、いろいろ、教育に拘りなく意見を戴きたいんですよ。だから、あの手引きで言っちゃうと、教育の事が9割で、地域の事なんかは内容が薄いのですよ。『地域のことに配慮しなさいね。』それしか書いていないので、とはいえ「人数が少ないので統合します」と言う訳にはいかないんで、その辺で、この手の会議の手法のひとつとして、まず「批判しない。」とありますんで、遠慮なくお話ください。

委員

“子供第一”っていう事は大賛成なんですけれども、“子供第一”はどういう切り口で、“子供第一”なのかということですけどね。あの、子供の性格によって、非常に多い中で揉まれて、それで成長して行って、それで大人になって社会に出たときに、いろいろな人とも関わっている関係を持っている子と、少人数で、仲良しクラブで育った時に、批判したり、喧嘩したり、飛び抜けて頭のいい奴がいたり、運動が出来たりだとか、あんまり無い様な社会の中で育って行って、それが大人になった時に、社会に出た時にいろんな人と関わる。そういった時にそういう環境で育った子っていうのは、なかなか難しいな。というところもありますよね。で、“子供第一”の切り口のところを、性格の弱い子もいるし、強い子もいるし、頭のいい子もいるし、一生懸命勉強してもなかなか伸びない子もいるし、いろんな人がいますよね。そこの切り口ってどこで切っても、いろんな人がいるので、さっきも言いましたけれど十人十色でね、いろんな形があるんで、これ、いろんな事言ったって、当然まとまんないと思うん

ですよ。そうすると、どここのところにポイントを持っていくか、要するに、南伊豆町の中から強い子供たちをできるだけ多く出したいね、と言うのか、まあ、「田舎の小さな塊の中で、みんなでぬるま湯につかって、まあ、一生過ごせれば良いね」と、「食うに困らない程度の収入があれば良いねとかね」、そういう事だって良い訳ですよ。別にね。だから、そこら辺のところを、どこをポイントに我々大人たちが、“子供第一”で考えた時に、子供の意見ではなくて、どうしたら子供たちが幸せになっていくか、ということ考えた時に、マジョリティだとか、マイノリティとかで考えた方が良いのか、その辺については、大人の責任として、やはりそういう観点で、子供第一ということを考えていけたらいいんじゃないか。で、その時に、どここの切り口にするかっていうのが、ポイントになるんだと思います。それは、『十人十色』で、いろんな人がいる訳ですから、町としてと言うか、大人として、強く育てるような訓練的にね、知識だとか、コミュニティだとか、強い人・弱い人、いろいろな人を知ってて、社会に出た時に困らない。そういうのを第一に考えて進めてもいいんじゃないかと思います。私としては、『強者の理論』とかね。『弱者の理論』じゃなくて、『強者の理論』っていうことが重要かなって思います。

事務局

前回の審議会もその話になっていますよね。『色々なタイプがいるんだけど、教育基本法にある「人格の形成」を教育は目指さなくちゃならない。人間力を付けなきゃならない時には、それが基本の大原則であるならば、小さい集団よりは、大きい方で、もちろん つまづきもあるでしょうが、でも、そのつまづきが人間の成長のバネになる。という話がでました。そこで、だからそこで、だからやっぱり大規模だよ。という話にはもちろんならないですけど、そういう話がなされました。

委員

いろんな行程が必要ですけどね。そこはどうするか。

委員

先ほどの委員が言われたところは、ちょっと極端な意見なのかなとも思うんですけど、うなづける部分もあります。というのは、今、事務局が言われた小学生の部活、中学校に行く時、人数が減っているのに、今、選択肢が増えてますよね。僕らの頃はバレー部・テニス部・卓球部どれかに入らなくちゃ絶対にダメ。ところが、今うちの子はサッカーをやっているんで

すよ。で、他では野球をやるでしょ。で、当時僕も野球をずっとやっていたんで、「中学校でも野球部を作ってください。」と言ったらダメって言われたんです。「なんで？」って言ったら、中体連のことを言われたんです。「3年間やって、結局、最後の最後になっても大会に出られなくて良いのか。」とまあ納得したんですよね、中学一年生の時には。「そうだな、言われてみれば」と、だからなんだというのはなくて、結局、中学生の時には、野球でなくてバレーをやったんですが、高校に入ったら野球がやりたくて、やるんですよ。結局、行きたいところに行くわけです。だから、その選択肢を残しておく方が重要じゃないかと。どのレベルでの区切り口ってところに決めてしまうよりも、多様な可能性を残したところの“箱”を残して用意している方が良いかと思います。その形で行くと、僕は今の中学校のスタイルが、最初、理解できなかったんですよ。部活にきちんと入らなくても良いから、サッカーやりたければ沼津に行けば良い。その代り、どこかに所属していなければならぬが、練習に出なくてもいいよ。そういう雰囲気があったりする訳です。学校はとりあえず入れと言って、じゃ、どうしてサッカー部を作ってくれないのか。どうして野球部を作ってくれないのかなって、言っちゃうんですけど。沢山の可能性を残しているって意味では、これもありだなんて最近理解できてきました。当時の絶対に運動部に入らなくちゃダメっていう教育方針もこれ大賛成です。そりゃそうだなって、今になって思います。そこで行くと、自分たちでやっていくって人も、もちろんいるかと思えます。ここから飛び出して、「中央に行きたい」と出る人もいるかと思えます。そこは、両方の可能性を残せる形で、義務教育の場を与えていくべきかなと。あと先程から言われている、“地域との関係性”ってところが、どこまで小学校が地域における影響力があるのかなって。例えば大学が在るとするならば、これは大影響があるわけです。だって毎年4月になれば、絶対新生が入ってくる。賃貸物件の需要があり、回るんですよ。そういうのがね。それに食堂も儲かるんですよ。でも、そういうサイクルが無いわけですよ。だから、大学が無くなるんだったら、それは、大問題ですよ。じゃ、小中学校は、どこまで影響力があるのかなって、ところを測った時にですね、コストじゃないっていうのに大賛成です。可能性を残しつつ地域の影響を凶ったうえで、どうするのかと言うのを一番いいのかなって、可能性から言えば先ほどの委員の発言は、僕は賛成なんですけど、そこだけで終始してしまったら、たぶん

この小さい町では。例えば行政合併の時も同じことが起きたはずなんです。どこか他人事っていうのではなくて、その目で考えたいなって思うんですけど、それでも可能性は残したいなって、ところでは賛成です。

会長 他にありませんか。

委員 自分たちの認識では、当然、地区の学校として守るべきものという認識があるわけですから、あえて言うんですけど、いま現在の南上小学校に通わなければいけない地区というのは、要は、南上地区の訳なんですよ。その今の南中地区の、上賀茂の町営住宅が有りますよね。町営住宅までを南上小の学区に通える区域にすれば、南上小学校に通う生徒数が増えるんですよ。分散させるって言うことですけどね。要は、『学校を残すためには、どうしたら良いか』っていう観点から考えれば、そういう学校区分のまとめ方を変えていけば、学校というものは残る。複式が解消されれば、統合は無いよ、南上小学校が残る可能性ということからいけば、そういうのも一つの考え方かなって思うんですけど。

事務局 前回の審議会の中でも、その意見は出ていました。やっぱり、その時には、複式が解消できれば、人が増えれば良いだろう論から行けば、町営住宅の住民は、南上小だなという話です。学区については当然ながらルールがあり、南伊豆町の規則で定められています。ルールがないと、どこの学校に行ってもよいことになるので、それもまずいでしょうって話ってことで、ちゃんと学校指定規則があります。

南伊豆町のホームページから確認できますけど、伊浜は南中小、南伊豆中。下賀茂の老人ホームの前に家が在ります。あそこは下賀茂なんで、南中小へ行かなきゃダメなんです。だけど地理的の用件とかですね、指定した学校の変更の届出書類を申請することができます。実際に南上から南中小に通っている子供もいます。住所は南上なんですけど、これは保護者の申請があり、教育委員会が認めたものです。その認められたものっていうのは、南中小の先生が好きだからとか、そういうのではなくて、両親の仕事の問題とか、この子はちょっと教育上配慮が必用な場合がありますという場合です。今の委員が言った町営住宅から向こうってことになるのと、具体的に地区名は、何処になりますか。

- 委員 石井です。天神原は、三浜地区なんですけど、南上小学校へ来ることになっています。だから学校を残すためにはどのようにしたら良いのかという、考え方を少し変えろとね、もっといろいろな考えが広がると思いますけど。
- 委員 いいアイデアがあればね。いいアイデアだけど、対象となる人がどう思うのかな。
- 委員 統合っていうのをね、ゼロに考えて、南上の学校が在ったら、もっと南上に来たい人が増えるんです。今、現在だってポツポツ南上に来てますよね。都会から来た人たちと結構しゃべったことがありますけど、ここが良いから来たんだよって、まあ少人数ですが、わざわざ来たと、そういう意味を持っている人がいるもんですから。やはり、ここで学校が無くなると、もっと南伊豆町に移住する人口も減るんじゃないかという事も考えます。そういう特殊的な南上の良いところに魅力があるからだと考えています。
- 会長 大変難しい問題ですね。学区の変更とは、また該当地区がどういう風になるか。
- 委員 先程のアンケートは、学校で行ったのですが、反対するって意見が結構ありましたよね。その人たちの、なんで反対なのかという意見を聞きたいなと思います。一般的な考えで反対しているのか、まだ、更に深い考えがあるのかと言うのを、私たちが思いつかない別のことで反対している人もいるかもしれないですよ。その辺、ちょっと聞きたいなって気持ちあります。
- 会長 それ今、わかりますか。
- 委員 いくつか書いてありますけど。反対っていうのは、やはり、ここにまとめである、小人数の学校にしかできないことが、まだあると。このぐらいの人数なら良いんじゃないかってこと、やはり学校が無くなると、地域から子供がどんどん減っていくと言うことで、たぶんきっと、実家に住む人が、学校が無くなれば、下賀茂にアパートを借りて住もうとか、バスで通う

事とか、そういう事を言っているのかなってこと。やはり南上ならではの行事、合同運動会などがとても良いので、今年、三浜の方達も南上小に見に来たりとかして、「三浜小が無くなって、行くところが無くなっちゃって」っていう話をちょっと来て言ったりしているのを聞いたりして。あと、災害があった時に南中に迎えに行けないことも想定されるので、ちょっと災害が心配ということもあります。『競争原理』を言う人もいるが、小学校のうちは伸び伸びと助け合って、思いやる心を育てて、中学に行って大勢になって揉まれても、十分それで間に合うんじゃないか。というような感じと、やっぱり、生徒の数が多くなると目が行き届かなくなるかなと、勉強が遅れてしまうのかなとか、子供関係のイジメとかトラブルが増えたりして。と言うのが、ここにはありますけど。

事務局

第1回目のアンケートですからね。

委員

いろんな人の意見をみんながどう考えているのか、聞くと、やっぱり、そっちの方が強いなって、また、変わる可能性もね、先ほど他の委員が言った通り変わるかも知れないですけどね。

会長

先程、“強い子”に焦点を当てるか、“仲良しのぬるま湯”に焦点を当てるか、何処で区切りを付けるかという話がありましたけれど、私は今も、ずっと広く見ていて、日本全体の中で若者を見た時に、大学の大学生ですね、大学を4年間通って大学院にそのまま進んでいる子供たちが、そこでね、授業を英語でやると、日本人はなかなか集まってこないんだそうです。外国から来て、日本の学校に来ている子は、別に平気なんですけど、英語で授業をやると避けたがる。それから、海外に出て大学を卒業していく、海外に出て研究施設に入って、研究していくっていうことが、日本はどんどん減ってきているということが言われています。今、グローバル社会で、単に日本の国の中だけでなく、世界全体でも動き回れる人材というのが、そういう人材が求められていますけど、でも、なかなかそういう人材が育ってない。というのが、現状のようです。そういうことを考えた時に、小学校の教育、中学校での教育、高校の教育をどのようにしていけば、そういう風に、どんどん自分の道を切り開いて行ける、強い意志を持った子が、若者に育っていくか、そういう様な事を具体的に取り上げられていな

いんですけど、本当は、そういうところが求められているんじゃないのかなと私は思っているのですけど。そうした時、南伊豆の中だけで子供は、南伊豆の中だけで学校を卒業して、南伊豆の中だけで生活していく、という訳でもないんですよ。子供は、それぞれ、どの道を選んで進んで行くのか。たぶん、南伊豆を飛び越える子供も結構出るだろうし、そうした時に、そういう世の中を渡っていける子供に育てていこうかと、それが大事かと思っておりますけど。そのことと、これらが関係するかはわからないのですけど。私は、子供にはそういう力を付けていかなくちゃいけないかなと思っております。

委員

地域における学校の役割は、やはり地元の区長さんは愛着がありますよね。学校が地元にあるから。だから僕らも、統合について、そういう私情は判るんですけど、大きい学校・小さい学校、どちらにしたって、メリット・デメリットありますよね。それで、どちらが子供の為になるかと言うことが、一番重要ではないかと。子供が第一と言っていますから、それが一番の問題ではないかと思っております。

副会長

先程、委員と会長がおっしゃられた事ですけどね。どう子供達を育てていきたいのかっていうところが、一番のポイントであって、小学校を出た時にどういう力をつけさせたいのかっていうことが重要だと思うんですよ。その時に仲良しグループで、あまり波風も立たなくて良いのかもかもしれません。でも反面、たくましさに欠けるかもしれない。そこで、どう力をつけて中学校に入学させたいのか、前回もお話したように、南伊豆中学校では、大きな学区、28地区から来るわけです。南伊豆34地区ある中で、6地区だけが南伊豆東中学区ですよ。物凄く巨大な学区を持っているんですよ。でも、やはり子供たちは、三浜の子は三浜をイメージして自分の地域を持っています。南上の子も南上の子で、やはり自分たちの地域を持っています。ちゃんと。なのでなんでしょう、ここで、小学校が無くなるから、自分の地域が無くなるって、そういう風に子供たちは、そういう考え方は、中学生になるとしていません。やはり、自分の地域を愛しています。で、中学ではそういう“地域学び”をしますし、自分の地域の良さっていうのをあわせて、それを、町を思う教材に繋げる教育をやっています。そういう意味では、そのところはそれ程心配しなくても、ち

ちゃんと自分の地域を持っていますよ。と、言うことが言えます。ただ、では先程、冒頭で申し上げたとおり、どんな力を付けさせたいのか、義務教育の間9年間しかない訳です。その間に世に出て、外に出て、どういう働きが出来て、どんな力を付けて、また地域へ帰ってきてくれるのかって言うのがね、私が今、一番重要な課題ではないかなって思っているんです。これは、町長さんにも教育長さんにもお話したことなんですけれども、今やはりこの町から一度出て、高校・大学へ行って力を付けて、ただ自分の生まれた故郷・地域に愛着を持って、やがては自分が帰ってきて、何か業を興そうというような人材を育てたいですよって言う。町には仕事があれば、子供たちは帰ってこられるのですが、それは、そう待っていても、なかなかそれは難しい問題もあります。だったら自分が学んで、起業しようじゃないかというような子供たちを育てていきたい。そしたら、どんな力が今、必要なのかなっていう風に考えていけばいいのかなって、思ったりしています。これ個人的な意見ですけどね。だから、地域は、区長さんが心配されるんですけど、それは当然の心配だと思いますけど、やはり無くならないと思います。例えば、委員が手石、私も手石なんですけど、竹麻が無くなりました。でも、私たちは、南伊豆東中学になっても、竹麻を持っています。自分の中に。しっかりと、祭もやっていますしね。ですから、そういう事ですね、地域の結び付きがなくなるということは、恐らく無いだろう。むしろ、そうなったら学校教育は、地域と密着した教育を進めていけば、そこは解消できるんじゃないかなと、考えております。

委員

実は、私もですね、今、副会長が言われたように、小学校5年生まで竹麻小学校にいました。50年東京・横浜に居て、定年でこちらに戻ってきて、7年経つ。やはりですね、50年離れていまして、南伊豆の想いはずっと消えないで、戻ってきてまた、起業するとかはしてないですけど、愛着は非常に大切なところでして、小学校の時に地域への愛着心っていうのが芽生えますよね。私事というか、南中小学校の5年生・6年生は、毎年ですね、ジオパークのツアーを企画してくれまして、私、入間だとか、日和山だとか、伊豆の良さそうなところを案内して、地学的な説明ですけど、伊豆半島ってどういう成り立ちで出来て、こういう美しい景色が出来ているんだよとか、3時間ぐらいかな、毎年話して、今年で3回もやっているんですけども、ちょっと行き過ぎて、地元の愛着が強すぎてしまって、も

とも、その保存しなくちゃいけない所の石を持ってきちゃったりしてしまいました。話を聞くとね、裏に良いところがありまして、これを宝物みたいに持っていて、中に金属、もしかしたら金が入っているんじゃないかと、またそういう話をすると一生懸命探したりして、あそこは入間地区ですかね、子供たちも物凄く愛着を持っていますし、それで話をすると、理科の先生が、その辺非常に熱心で、子供たちを集めて、40人近いですかね、案内してくれるんですけど、あれは勉強の、野外学習の一つかもしれないんですけど、地元の愛着心を持たせることに対して非常に良いことで、やはり、どっかで揉まれていってもね、最後は、自分の生まれ育った“地域の愛着心”を育てるって事は非常に大切な事だなと、ですからさっき、副会長が基本的な事を言いましたが、確かに強い子を育てることは必要なことですが、最後に自分が骨をうずめるところは、やはり南伊豆だなんて、教育の中で小学生ぐらいから芽生えさせるためには、こういう教育をやっていくってことも大切だと思います。それが統合だとかいうことと、関係は薄いかもしれないですけどね。

会長

子供たちに郷土愛をどうやって育てるっていうかっていう事も非常に大切な教育で、特に南伊豆は自然が豊かだから、海に行っても、山に行ってもいろんなことが出来るし、そういう体験をさせたいなど言うことも常々思っている所ですけど。それと、学校を統合すべきか、そのまま置いておくべきか、と言うのは、それと学校を統合をしたほうが良いのか、また、そのまま置いておくべきかと言うのは、まだちょっと難しくてわからないんですが。今日は、まだ、しゃべっていない方の発言をお願いします。

委員

人間の心理として、環境が変わるっていうのは、とっても不安なことなので、アンケートを取った時にやはり、「どちらかわからない。」とか、「現状を維持したい。」という思いも良くわかるし、そういった中で、先程から何度かお話に出てきていますけれども、子供にとって、どうすることが1番良いのかなということ、しっかり考えていかなければいけないなど。いずれ社会に出れば、揉まれる事は確かですよ、それをどこで、いつ、どんな環境の中で、感じるっていうか、学んでいくのが、一番子供達にとって良いのかなあってことと、あと、区長会でしたっけ、この報告の中にある「こども園で、友達ができた。そこで、小学校に入る時にまた別の学

校に行って、また中学校で一緒になって」て、いうのが、子供たちにとってどういう風に感じるのか、学びの中で、どういう風に影響されているのを考えたいなどということと、それぞれ、南上の良いところ、南中の良いところっていうのがあるので、そういうことを考えながら、行く中で何度も出てきていますけれども、南伊豆の子供たちをどう育てたいのか、どんなタイミングでどういうことを学ばせたいのかっていうのを考えた上で、結論を出していけたら良いのかなって思います。なので、いずれアンケートを取るようではありますが、アンケート取るにあたっては、この会議で話された内容の事をしっかりお伝えしながら、で、どう集められますか。って、ことで、アンケートの方を進められたら良いのかなと思います。

事務局

ちよっとね、難しくなっちゃってきているのが、事務方としてですが、いずれこれ、まとめて答申書を作らなければならない時に、根拠の無い答申書は作れないんですよ。では複式は、なぜだめかという根拠になってくると、文科省の『中央教育審議会の手引き』になってくると思うんですよ。この手引きによると、で、この手引きが、そこら辺の適当な人が作ったのでは無いということ。これが根拠になること。アンケートを取るべき時にも、この手引きによると、複式学級は、教育上極めて問題がありますよと、で皆さん、どう思いますか、という、アンケートに当然なるだろうし、それと地域。“地域”にとって、いやいや南上小は、だから、こういった役割があるんで、これがこれなんです。ってその“根拠”。根拠は出ないでしょうけど、この審議会で出されたものが、アンケートに出てくるんだと思います。当然ながら、こういう子供を育てるべきだと、この審議会のまとめも当然、必要になってくると思うんですけども。だから結構、答申書って、町の中で広まるので、どういう答申書を作ろうかな、なんていうのを。また、アンケート結果に基づいて、皆さん、こういうアンケートを出しましたから、今一度、再度考えましょうね。って、話になるんですけど。ちよっとその辺もね、皆さんシュミレーションしてほしいです。答申書は皆さんの名前が出ます。こういった答申書が出されました、この答申書は、こういったメンバーで、審議した話になってくるんです。

会長

この会の一番の悩みが、今言ったことなんですね。
南上小をそのまま、現在の現状どおり置いていくか、南中小と統合するか、

どっちにしても、ちゃんとしたそれなりの根拠を示さないことには、答申にならない様な気がする訳でして、そうすると、そういう根拠を示して出すということは、非常に難しいだろうな。まとめる事務局の方は、非常に大変だろうな。私もこんな時にこれをやっているのがね。

ただ本当に、学校も南中も、南上もそうだし、南伊豆中学も南伊豆東中学もそうです。どんどんどんどん子供の数が減っていく、ということは、どこかでそれぞれの学校についての、適正化ということで審議しなければならない。たまたま南上小が平成18年度に、この時期に審議するようにと、出ていた訳ですけど。そういうのが出ていなくてもどこか数年のうちには、やはり審議せざるを得ない状況なのかな、なんてことを思うのですけど。ただ審議をして、いったんどっちにしろ、答申してからは、また、答申をやり直すなんてことは出来ないと思います。それだけ、非常に責任が重い答申になってくるのかな。アンケートを取るにしても、それを集約してまとめていくにしても、非常に重みのあることなんですね。要するに将来、これから生まれてくる子供たちのためにも関わってくる非常に大きな内容になってくる。そんなことを思っているわけなんですけど、それだけに、今回3回目ですが、何回やるのか、毎回毎회가、気が重いような会合になってきますね。

委員

最近だと、三浜小学校が答申されましたよね。三浜小学校が統合される時にも、こういう話し合いがあったんですよね。どのような、話し合いがされたんですかね。参考になるんじゃないかと思うんですけど。

会長

やはり、三浜小の子供の数の減少ですね。複式が解消されないで、どんどん子供の数が減っていくというような。そういうことが一番大きかったように思います。それで、どうするか、ということだったと思うんです。合わせてその時に、南上も子供の数が減ってきていると出ましたけど、まだその時点では複式が無かったと思います。まだ無いから、複式にならないうちは、ということがあって本年度まで延びたんじゃないかと思いません。

副会長

新生生がいない状態で、ゼロゼロってなっちゃったんですよ。もう、児童が入ってこなくなっちゃったんだよね。それでもう、ふんぎるしかなかっ

たというか。

委員 子供が少なくなっちゃったんだよね。

副会長 新生がゼロですから。それが2年続いたのかな。

委員 複式が2つ、5・6年と3・4年、っていう感じだったので。

会長 伊浜の親御さんなんかは、バス通の距離が、非常に時間が係るし、距離もあるし、心配だったみたいです。

委員 それは心配があると思いますよ。昨日も私の孫がね、小学校に通っているんですが、うちは中木でね、バスで何分かかかるかな、30分近くかかるんじゃないですか、先日バスの中で、お腹が痛くなったらしいんです。「僕は大丈夫だよ」って話していたけど、「体調が悪い時だってあるよ」って、日頃からどうしているのかなって話をしたんだけど、心配になってね。長い距離のバス通ってというのは、そういうことも考えられるんですね。可哀想だなと思って。

会長 どうせバスに乗るのなら、南中を通り過ぎて日野までバスが来れば、降りればすぐ南東小学校だから、そっちの方がいいなという意見もありました。

委員 今回の統合審議会の委員として、自分が代表区長として参加していますが、任期がこの3月で終わります。そのまま継続される区長さんもありますが、そうしますと、また新しくなられた、それぞれの係の人たちが、新委員となってまた、話を重ねて行くわけですね。また、ゼロから話し合うのですか。

事務局 ある程度は、委員の引き継ぎをしていただきたいのと、言っているとおり、当然ながら事務方としての説明はやりたいと思っております。

会長 委員の事が出たことに関連して、1番目の「地域における学校の役割」については、宜しいでしょうか。では、2番目の委員の変更についてです。

事務局の方で説明をお願いします。

事務局 当然ながら、役員のみなさんが変わったら、あの人だったら、この人だったらってあると思うんですけど、これはもう、ルール上しょうがないところがあるかと思います。その中で、事務方としては、今の現状報告とか、ここまでに至る経緯とか、いつでも話にいきますので、また言ってきていただきたい。今日が2月25日で、次回1ヵ月後になると3月末日になるんですけど、皆さんのスケジュール的にはどうですか。

委員 きついです。

委員 年度末は、ちょっと。きついね

事務局 きつい、という意見が多そうなので、会長・副会長と相談させてください。第1回の委員会でも、言ったんですが、これは隠すものではない。TVも来てもらっても構わないですし、傍聴も構わないです。あと、当然ながら南上の区長さんも変わられるでしょうし、校長先生方も、いるか、いないかわからないですし、区長さん方もともかくなんで。ただここは、あくまでも審議会で委嘱書の交付を受けて、審議する場なので、皆さんにちゃんと費用弁償を払っています。日当を払っています。だから、引き継ぎで中途半端にはできないので、私が個別に南上のPTAさん集まる時、区長さんが集まる時、PTAは当然、南伊豆中も南中小も替わるので、当然ながら、そのような場、説明会はあっても良いのかなと思っています。

会長 そうすると、ひょっとするとこのメンバーが次回の時には、何人かは変わっていると。3月に開催しないのであれば何人かは変わっている。

事務局 絶対に変わっています。これは、ルール上しょうがないので、各委員の思っていることを次の人に引き継ぐんで、次の委員さんに「ああ言ってよ」って頼むものでもありませんし、その都度、議事録を出しますし、それも参考にして引き継ぎをやってほしいです。

今後は根拠が必要になるし、アンケートも取りますし、もちろんアンケートも根拠の一つになります。ただ、薄っぺらいアンケートではないです。

アンケートは皆さんに確認してもらいたいのと、確実にアンケートを回収したいので、返信用封筒に入れて、郵送代をかけて出します。アンケートの内容は発送前に皆さんに見てもらいます。この設問は、誘導しているとか、やりすぎだとかそういうところも見てもらいたいです。ですので、新しい委員さんが、俺は知らないってことが、なるべくなら、ないようにして引き継いでほしいのと、私もそこまでの過程はしっかり説明する予定です。

委員 代表区長が決まるのは、区長会の後ですよ。そこで決まるから、そこまでは決まらない。5月ぐらいだけ。

会長 次回、入れ替わりがありそうなのは、PTA会長さんが変わる。校長が異動があるかどうか、その辺ぐらいかな。3月後半は、学校関係忙しくて会合が取れそうもないなあってところですが。3月は無理ってことですか。

副会長 4月もダメですね。

会長 4月もダメって話がありましたが、次回の話は、アンケートの話が出たので、次はどのようなアンケートを取るかって、その辺の話をお願いします。

事務局 5月の開催としても、事務方は動きます。南上小、或いはPTA、南上区長会もそうですね。各区の小さい会議で説明が必要であれば呼んでください。あと、アンケートなんですけど、確認をとりたいのが、5月の時には、だいたい引き継ぎも終わって、私の事務方の説明も終わった中で、いよいよアンケートにいきたいなど、このアンケートは、決定じゃないですよ。アンケート結果を受けて、更に話し合いをするんですけど、アンケートの内容は、組み立ては、この統合審議会からだと思います。現状を言わないと判りません。つまり、統合審議会を開催しました、から、前回の平成18年の答申を受けて、あと人口的推移、それが当然付いてきます。前回の答申が複式なので、複式については、いろいろ議論はされました。ちょっと誤解を受け易いのが、『小規模の教育』と『複式』は違いますよと。この中央学校審議会の『複式学校の手引き』が示されております。それについての設問が出てくるわけですから。それから、南上の昔から伝統のある運

動会のこと、防災拠点としてのこと、自由に記載してもらい欄もある中において、一概に学校が無くなるから、地域も無くなるのかという議論もされました。という事実に基づいたアンケートになろうかと思います。設問内容はそんなに多くない、でも記述がいっぱいになってくる。単純に○×の設問もあるかと思いますが、自由記載のところも当然あるかと思いますが。5月の会議の前に手にいただけるなら、南上小のアンケートいただきたいです。皆さんのところにも郵送したいです。ここまで来て、内容も当然聞きたいでしょうし、次の方への申し送りも当然必要になってくるでしょうし。願わくば、南上小のアンケートを戴けませんかね。

委員 別に隠すものでもないですし、大丈夫ですよ。

委員 アンケートに対する質問です。アンケートの配布は、南上地区全戸、それともPTA等学校関係者ですか。

事務局 それは、みなさんで決めていただきたいですね。

委員 これから決めるのですね。

事務局 逆にどういう提案がありますか。ご意見をお願いします。

委員 要するに多数決でね、どうするのかって決めていくのか。その学校は関係ないよ、っていう人にまでそういうものを配りますか。それで「どっちでもいいよ」で、あまり考えない様な人が入って、過半数の人どっちかに偏ったから、「このように決まりましたよ」ってなっても。どのように決めるのかね。

事務局 今の、学校に関係ない人、とはどの辺を想定していますか。

委員 自分たちで話し合っている、それは俺たち関係ないよって人がいるんですよ。自分たちが高齢化しちゃって、後継ぎも帰ってこないよって、お墓を守る人もいないよってという人にまで、学校の問題は関係ないですよ。その辺をね、どのようにして行くのか、気になるもので。選挙とは違うか

ら。

事務局 基本的には、どうするかはこの審議会で決めるものであって、アンケートの結果で決まり、というものではありません。それは当然ですし、ただ、これから子育てするであろう、これから学校に入るであろう世帯にもアンケートをと書いてあります。もちろん在校生も、そうなんですけど、学校のOBからもアンケートをと書いてあります。OBは、どこまでがOBにしますかね。必ずしも、この手引きを尊重しろとは書いてありません。書いてありませんので、この審議会で必要ないと決めればよいと考えます。

委員 難しいですね、決めること自体。

会長 その辺の細かいところは次回の会議へ持越しして詰めるということで。

委員 今回、南上小アンケートを取ることにになった方々の意見の中に、小学校も無くなると警察官駐在所も無くなる。とかなんとか、嘘か本当かわからない、そういう情報を心配されている方々もいるんです。この会で、駐在所の云々は誰も解らないと思うんです。でも、そういった意見も、たぶんアンケートを取れば出てくる可能性もある。

事務局 南崎も石廊崎の派出所がありますよね。

副会長 石廊崎はあるよ。

委員 子浦もあります。

副会長 子浦も在るから学校とは関係ないよ。

事務局 調べておきます。

委員 どこまでつながって、影響があるのか、そのあたりもまだ、漠然としているものですから。

事務局 判りました、ちょっと宿題ですね。

会長 他に無いようですので、これで、今日は終わりにしたいと思います。
皆さんありがとうございました。